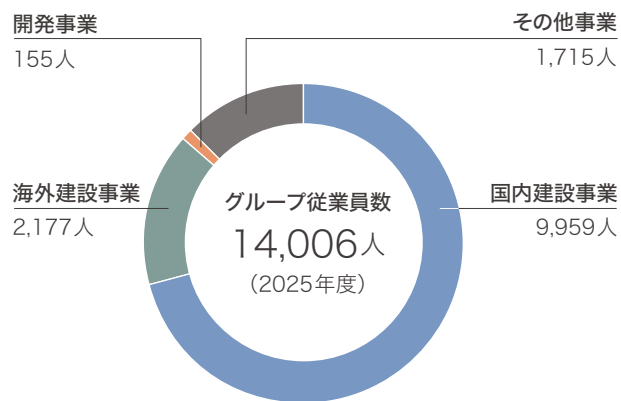
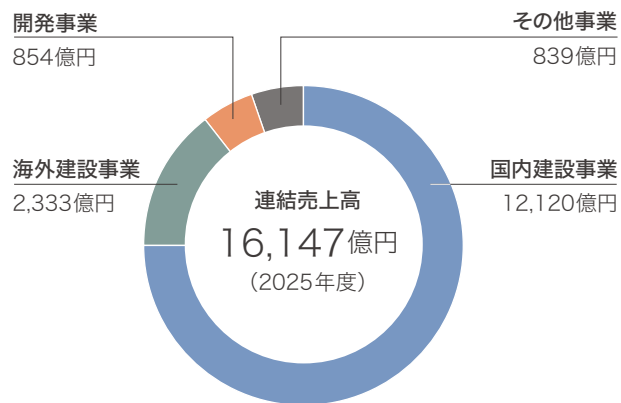
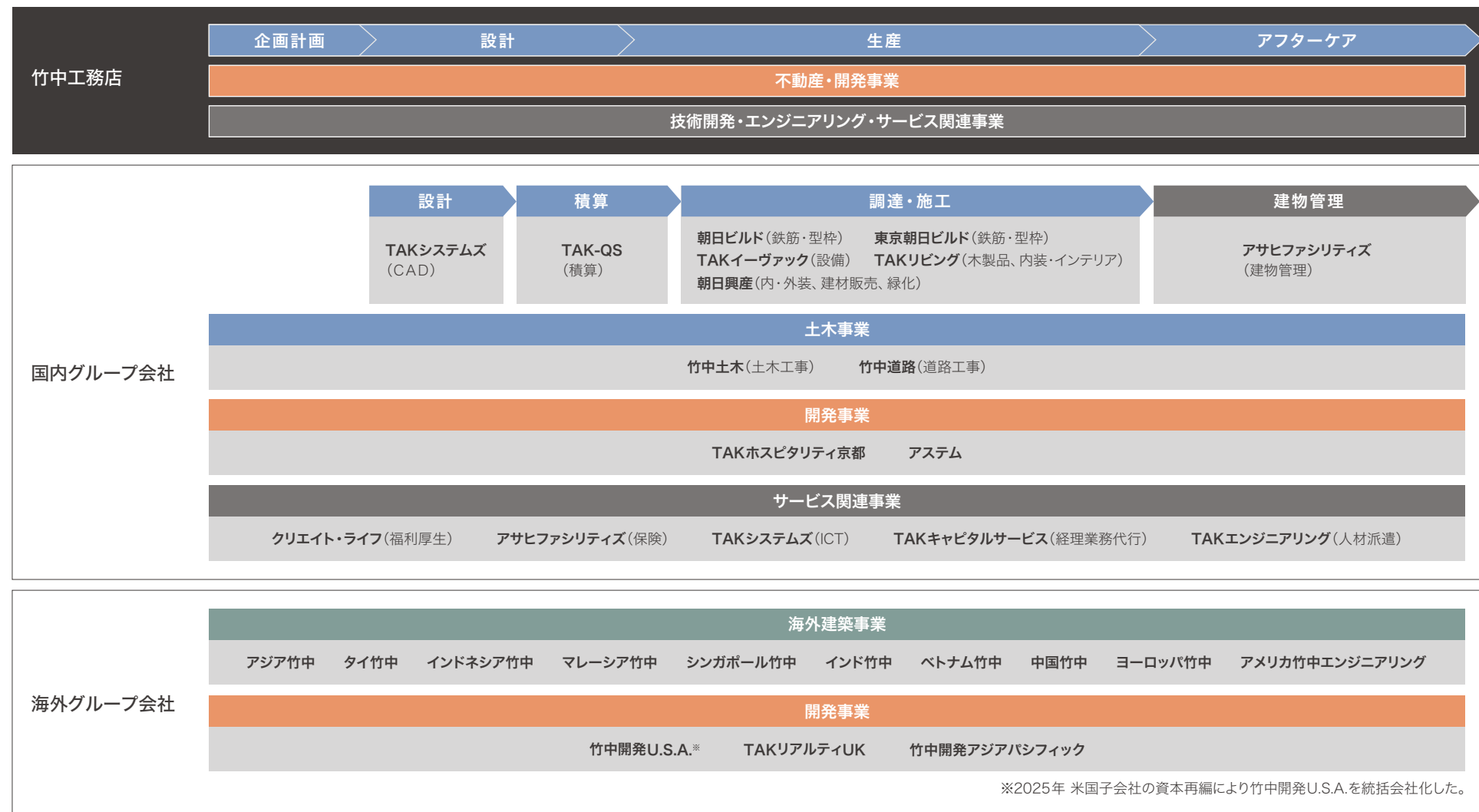


グループ全体で「まちづくりの全てのステージ」でお客様の期待に応えます。

竹中グループの事業規模



竹中グループ主要各社の主な事業領域



400年にわたり、技術を磨き、 社会に様々な価値を届けています。

竹中工務店は400年以上にわたり、建築を専門とし、ランドマークとなる数多くの建築物を手掛け、建設業界と社会の発展に寄与してきました。宮大工であった初代 竹中藤兵衛正高から代々培ってきた「棟梁精神」は、竹中工務店の経営理念「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」に受け継がれ、技術の竹中、品質の竹中と呼ばれる企業活動の根底に脈々と流れています。そして時代の流れとともに「作品」を通じた活動は国内外へ、また建築の枠を超えて、豊かで安心な「まちづくり」へと広がり、持続可能な社会の実現に貢献しています。

1610～ 建築専門の宮大工として

初代 竹中藤兵衛正高が名古屋で工匠の道を歩み始めました。板図(設計)、普請(施工)、修繕まで品質に一元的に責任を担う棟梁として、神社仏閣の造営に努め、明治以降は、洋風建築も手掛けていきます。



1782 大圓寺薬医門



1818 三縁寺本堂



1897 三井名古屋製糸所

この時代に手掛けた主な作品

- 1836 寂光院薬医門
正福寺本堂
- 1841 志摩国分寺本堂
- 1843 大寶神社
- 1874 名古屋鎮台兵舎
- 1884 三井銀行名古屋出張所
- 1890 東福寺方丈
- 1893 遊行寺本堂

1899～ 創立、組織基盤の整備と建築技術の研鑽

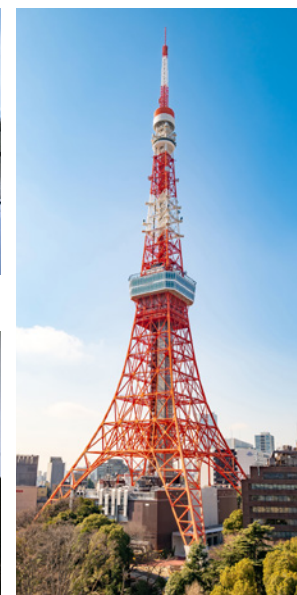
14代藤右衛門が神戸へ進出。設計と施工を表す「工務」、お客様への奉仕を意味する「店」を合わせ、「工務店」と名付けました。西洋技術の吸収と熟練工の養成により近代建築を手掛け、当時の最新技術を用いた作品を遺しています。



1900 三井銀行小野浜倉庫



1934 明治生命館



1958 東京タワー

この時代に手掛けた主な作品

- 1912 高島屋烏丸(京都)店
西本願寺伝道院
- 1916 大阪朝日新聞社
- 1923 堂島ビルディング
- 1952 日活国際会館
- 1957 南極観測用施設
- 1964 日本武道館
- 1966 国立劇場

社会と竹中工務店の主な出来事

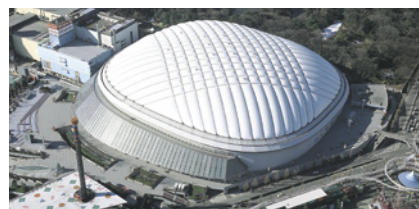
- 1610 創業
- 1868 明治維新
- 1894 日清戦争
- 1899 竹中藤右衛門が神戸進出、創立第1年とする
- 1909 合名会社竹中工務店設立
- 1923 関東大震災
- 1937 株式会社竹中工務店設立
- 1941 株式会社竹中土木設立
- 1945 太平洋戦争終結
- 1959 竹中建築技術研究所開設
- 1960 TAKENAKA & ASSOCIATES INC. 米国に設立
- 1961 財団法人竹中育英会設立
- 1963 国立劇場 設計競技1等入選
- 1964 開発計画本部を設置
季刊誌「approach」創刊
東京オリンピック開催
- 1969 株式会社アサヒファシリティズ設立

1970～ 社会構造の変化と海外進出の本格化

戦後の高度成長期に大きな転換期を迎えました。環境建築・ドームなど次の時代を切り開くプロジェクトに積極的に取り組んでいくこととなります。また、ヨーロッパやアジアに拠点を設け、国際空港を手掛けるなど、海外進出を本格化させました。品質経営を掲げ、業界に先駆けてTQMを導入した品質管理活動を推し進めました。



1987 有楽町マリオン



1988 東京ドーム



1987 ホテル日航サンフランシスコ

この時代に手掛けた主な作品

- 1972 大同生命江坂ビル
- 1978 独日センター
- 1981 チャンギ空港
第1ターミナルビル
- 1991 グランドハイアット
カウアイリゾート&
スパ
- 1993 みずほPayPayドーム
福岡(旧福岡ドーム)

1995～ 社会ニーズの高度複雑化と多様なプロジェクトへの対応

阪神・淡路大震災を契機に、安全・安心、環境技術、保存再生への社会的ニーズが高まりました。建築市場や技術が成熟期を迎え、プロジェクトに高度な機能や社会的な価値が求められるとともに技術の洗練化が進んでいきます。



1995 アクロス福岡

この時代に手掛けた主な作品

- 2001 札幌ドーム「Hiroba」
- 2002 横浜赤レンガ倉庫保存再生
- 2005 明治生命館保存再生
- 2007 ミッドランドスクエア
新丸の内ビルディング

1996 東京オペラシティ
1997 新国立劇場

2007 東京ミッドタウン



2009 丸の内パークビルディング・三菱一号館

社会と竹中工務店の主な出来事

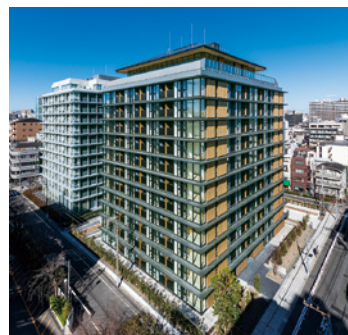
- | | | | |
|-----------------------------|---|--|--|
| 1970 大阪万博開催 | 1986 第二国立劇場の国際設計競技において最優秀作品に入選 | 1995 阪神・淡路大震災発生
国連気候変動枠組条約第1回締約国会議(COP1)開催 | 2004 「企業倫理綱領」制定 |
| 1971 「設計に緑を」活動開始 | 1988 竹中錬一会長がデミング本賞受賞 | 1996 ISO9001 認証取得 | 2005 東京本店社屋がCASBEE最高ランク認定取得
「ギャラリーエークウッド」オープン |
| 1973 ヨーロッパ竹中設立
第一次石油ショック | 1992 デミング賞大賞受賞
「竹中工務店地球環境憲章」制定
地球サミット開催 | 1997 国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)京都議定書採択
ISO14001取得
環境報告書「竹中eレポート」発刊 | 2007 「燃エンウッド®」が耐火集材材として国土交通大臣認定を取得 |
| 1974 東南アジア諸国に事務所設立 | 1993 竹中技術研究所移転 | | 2009 全社方針(安全衛生、品質、環境)制定 |
| 1979 非製造業として初のデミング賞実施賞受賞 | | | |
| 1984 神戸中山手に竹中大工道具館開設 | | | |

2010～ 脱炭素社会、サステナブルなまちの実現へ

2015年パリ協定採択によって温室効果ガス削減が先進国、途上国を問わず国際社会共通の課題となりました。脱炭素、資源循環、自然共生などの重要課題に対し、これまでに蓄積した技術と設計力を活かした解決を図り、サステナブルなまちの実現を目指します。



2017
チャンギ空港 第4ターミナルビル



2020
FLATS WOODS 木場



2022
大阪梅田ツインタワーズ・サウス



2024
長崎スタジアムシティ



2025
大阪・関西万博 大屋根リング(西工区)

この時代に手掛けた主な作品

- | | | | |
|-------------------------|--------------------------|------------------|--------------------------|
| 2013 大阪木材仲買会館 | 2018 旧山口萬吉邸 kudan house | 2020 横浜市役所 | 2023 ハレミライ千日前 |
| 2014 シンガポール国立美術館保存再生 | 2019 山荘 京大和・パーク ハイアット 京都 | パシフィック横浜ノース | 茨木市民会館 |
| 2017 グローバルゲート | 有明アリーナ | MIYASHITA PARK | 2024 神戸須磨シーワールド |
| パシフィックセンチュリー プレイス ジャカルタ | 渋谷 パルコ・ヒューリックビル | 2022 東京ミッドタウン八重洲 | グラングリーン大阪 |
| | 国立循環器病研究センター | | 長崎スタジアムシティ |
| | | | 2025 大阪・関西万博 大屋根リング(西工区) |

社会と竹中工務店の主な出来事

- | | | | |
|--|---|--|-------------------------------------|
| 2010 環境メッセージ
「人と自然をつなぐ」制定
生物多様性条約第10回締約国会議
(COP10)愛知で開催 | 2014 竹中グループCSRビジョン・グループメッセージ制定
竹中大工道具館移転 | 2020 日本政府 2050年カーボンニュートラル宣言 | 2025 環境戦略2050制定
大阪・関西万博開催 |
| 2011 東日本大震災発生 | 2015 国連気候変動枠組条約第21回締約国会議
(COP21)パリ協定を採択 | 2021 東京オリンピック・パラリンピック開催
CO ₂ 削減長期目標を改定 | 2026 竹中グループ経営ビジョン施行
中期経営計画2030施行 |
| 2012 企業行動規範制定
生物多様性活動指針制定 | 2016 木造・木質建築推進本部設置 | 2022 生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)
昆明・モンリオール生物多様性枠組を採択 | 2027 GREEN×EXPO 2027開催(予) |
| | 2017 万博推進室 まちづくり戦略室設置
聴竹居が国の重要文化財に指定 | 2023 グループCO ₂ 削減長期目標を設定 | 2030 国の温室効果ガス46%削減
(2013年度比)目標時期 |
| | 2019 CO ₂ 削減長期目標を設定 | 2024 竹中グループ2030年CO ₂ 削減長期目標がSBT認定取得 | 2050 カーボンニュートラル目標時期 |

～2030、2050 リジェネラティブな未来へ向けて

中長期の視点で環境問題、生産性向上への対応が求められる中、当社は建築やまちづくりを通じてAIやロボットの活用、再生可能エネルギーの導入、[ササキ](#)サーキュラーデザインビルド®などに主体的に取り組んでいきます。また、2050年目標であるカーボンニュートラルの達成と自然と共生する社会の実現にむけて、お客様、行政庁、協力会社などのステークホルダーの方々と協力して取り組むとともに、積極的に情報を開示していきます。

多様なステークホルダーとビジョンを共有し、 グループ全体で未来社会におけるプレゼンスを高めていく

経営理念	最良の作品を世に遺し、社会に貢献する
社是	正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし 勤勉業に従い職責を全うすべし 研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし 上下和親し共存共栄を期すべし
メッセージ	想いをかたちに 未来へつなぐ
品質経営基本方針	品質重視の経営に徹し 新しい環境創造への挑戦により お客様満足と社会の信用を得る

当社グループは経営理念である「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」ことを使命とし、社是、メッセージに込めた誓いをもとに、手掛ける作品の一つひとつを丹精込めてつくってきました。そして、お客様満足や社会の信用を得て企業の社会的価値を高める「品質経営基本方針」に則った活動を継続しています。一方、私たちを取り巻くステークホルダーが多様化する中で、建築や建設に求められる機能や価値も変化してきています。

当社グループが未来社会においてプレゼンスを高めていくために、中長期的な視点でグループの各事業がともに目指す方向性を「グループ経営ビジョン」と「グループ方針」にまとめました。各事業では、グループ経営ビジョンを実現するために具現化した戦略を展開し、それらを支える経営基盤戦略でより強固なものとしていきます。併せて、グループ各社では事業戦略に沿った個社の方針と事業計画を定め実行に移していきます。

竹中グループの真の目的であり、あるべき姿「普遍の価値観」
※企業理念(経営理念及び社是)

経営理念を実現するために
取るべき行動や方向性

環境変化に応じた中・長期で
各事業の目指す姿・方向性

グループ経営ビジョンを受け
諸方針を展開

ビジョンをどのように実現するか
具現化したもの=戦略

戦略を進めるための
役割分担・マネジメント

